

令和 4 年度管理栄養士国家試験出題基準 (ガイドライン) 改定における総論的検討事項について

令和4年度管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）改定における 主な論点

（総論的検討事項）

- 多職種連携に必要な知識及び技能について
 - ・ 保健医療分野共通の事項に関する他の保健医療関係職種の国家試験の出題状況、近年の保健医療分野の国際化の進展等を踏まえた難易度
 - ・ 管理栄養士の活躍領域や業務内容を踏まえた出題問題の範囲の妥当性及び出題採点方式（必修問題の出題等） 等

（科目別検討事項）

- 関連法規、制度等の改正への対応等を踏まえた適切かつ効果的な栄養管理について
 - ・ 関連法規、制度等の改正への対応
 - ・ 上記以外の前回改定後の管理栄養士国家試験（令和元～4年度）を踏まえた対応（各科目の項目表記、科目間の項目調整等）

総論的検討事項について

- ① 保健医療分野共通の事項に関する他の保健医療関係職種（注1）の国家試験の出題状況を踏まえた難易度

（注1）本検討会においては、医師、歯科医師、薬剤師及び看護師を対象とした。

- ② 近年の保健医療分野の国際化の進展等を踏まえた難易度

- ③ 管理栄養士の活躍領域や業務内容を踏まえた出題採点方式（必修問題の出題等）（注2）

（注2）出題問題の範囲の妥当性については、第3回改定検討会の議事（科目別検討事項）と合わせて議論することが適当と考えられるため、第3回で議論。

総論的検討事項について

- ① 保健医療分野共通の事項に関する他の保健医療関係職種（注1）の国家試験の出題状況を踏まえた難易度

（注1）本検討会においては、医師、歯科医師、薬剤師及び看護師を対象とした。

- ② 近年の保健医療分野の国際化の進展等を踏まえた難易度

- ③ 管理栄養士の活躍領域や業務内容を踏まえた出題採点方式（必修問題の出題等）（注2）

（注2）出題問題の範囲の妥当性については、第3回改定検討会の議事（科目別検討事項）と合わせて議論することが適当と考えられるため、第3回で議論。

① 保健医療分野共通の事項に関する他の保健医療関係職種の国家試験の出題状況を踏まえた難易度について

- 他の保健医療関係職種の国家試験における出題例（医師）

第116回（令和4年）医師国家試験C問題

75 日齢10の男児。生後3日目に腸回転異常症の手術を行い、術後は中心静脈栄養を行っていた。排便を認めたため、術後5日目から人工乳の哺乳を始め、中心静脈栄養を漸減していた。現在の体重は3,200 g。人工乳は1回量20 mLを8回投与している。中心静脈栄養製剤の組成はブドウ糖15%、アミノ酸1%である。人工乳のエネルギーは0.7 kcal/mLで腸管からの吸収率は100%とする。患児の必要エネルギー量は100 kcal/kg/日である。

患児の必要エネルギーを満たすための静脈栄養投与量(mL)を計算せよ。

解答： mL

① ② ③

0 0 0

1 1 1

・ ・ ・

・ ・ ・

8 8 8

9 9 9

正答： 325 mL

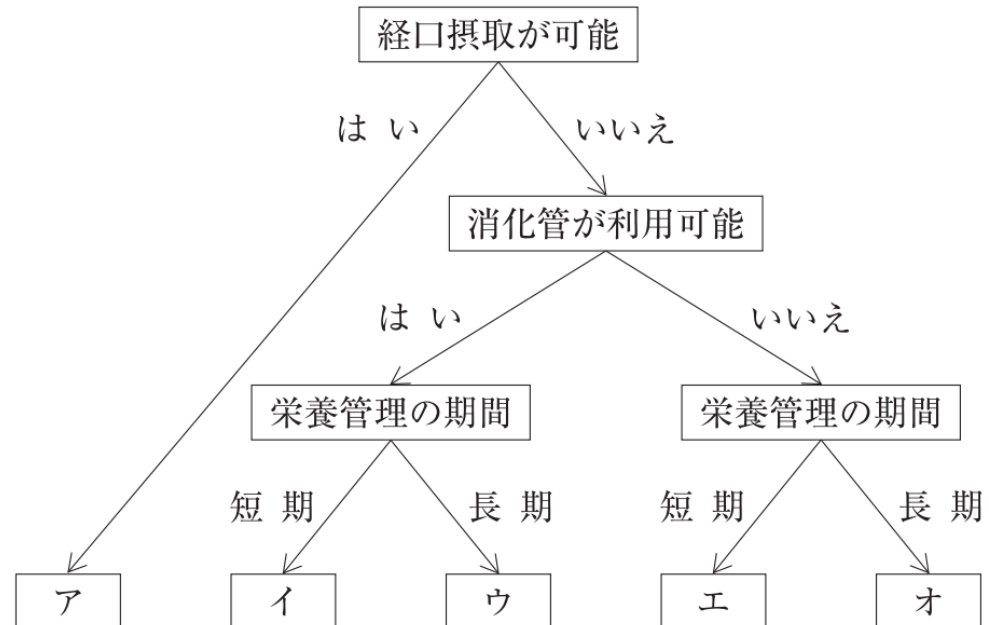
① 保健医療分野共通の事項に関する他の保健医療関係職種の国家試験の出題状況を踏まえた難易度について

- 他の保健医療関係職種の国家試験における出題例（歯科医師）

第113回（令和2年）歯科医師国家試験A問題

25 栄養投与経路を選択する際のフローチャートを示す。
ウはどれか。1つ選べ。

- a 経口栄養
- b 胃・腸瘻栄養
- c 経鼻経管栄養
- d 中心静脈栄養
- e 末梢静脈栄養



正答： b

① 保健医療分野共通の事項に関する他の保健医療関係職種の国家試験の出題状況を踏まえた難易度について

- 他の保健医療関係職種の国家試験における出題例（薬剤師）

第106回（令和3年）薬剤師国家試験必須問題

問20 日本人の平均摂取量が、「日本人の食事摂取基準（2015年版）」における「目標量」よりも多いのはどれか。1つ選べ。

- 1 炭水化物 2 飽和脂肪酸 3 コレステロール 4 カリウム 5 食物繊維

正答：2

第104回（平成31年）薬剤師国家試験必須問題

問2 濃度未知の水酸化ナトリウム水溶液を、0.01 mol/L塩酸標準液（ファクター $f = 1.020$ ）を用いて滴定したところ、滴定終点までに6.10 mLを要した。この水酸化ナトリウム水溶液中の水酸化ナトリウムの量（ μmol ）として適切なのはどれか。1つ選べ。

- 1 59.80 2 59.8 3 61.00 4 62.2 5 62.22

正答：4

① 保健医療分野共通の事項に関する他の保健医療関係職種の国家試験の出題状況を踏まえた難易度について

- 他の保健医療関係職種の国家試験における出題例（看護師）

第104回（平成27年）看護師国家試験共通問題

90 5%のクロルヘキシジングルコン酸塩を用いて0.2%希釈液2,000 mLをつくるのに必要な薬液量を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答： mL

① ②

0 0

1 1

・ ・

・ ・

8 8

9 9

正答： 80 mL

① 保健医療分野共通の事項に関する他の保健医療関係職種の国家試験の出題状況を踏まえた難易度について

- 他の保健医療関係職種の国家試験においては、多職種連携による栄養管理を行う上で必要となる、基礎的な栄養の知識や技能を問う問題が出題されている。
- 管理栄養士は栄養専門職として、多職種連携による栄養管理において、その専門性を十分に発揮することが期待されており、管理栄養士国家試験は、こうした知識や技能を確認するためのものとして重要な役割がある。



- こうした点を踏まえ、管理栄養士国家試験においては、以下の対応としてはどうか。
 - 栄養管理に関する知識や技能を問う問題については、**多職種連携を前提に、栄養専門職としての専門性を的確に問える難易度となるよう**、引き続き留意の上、出題する。
 - 多職種連携の際、保健医療関係職種に共通して必要となる基礎的な知識等については、**他の保健医療関係職種の国家試験における栄養管理に関する出題状況を参考に**、適切な難易度の問題を出題する。

総論的検討事項について

- ① 保健医療分野共通の事項に関する他の保健医療関係職種（注1）の国家試験の出題状況を踏まえた難易度

（注1）本検討会においては、医師、歯科医師、薬剤師及び看護師を対象とした。

- ② 近年の保健医療分野の国際化の進展等を踏まえた難易度

- ③ 管理栄養士の活躍領域や業務内容を踏まえた出題採点方式（必修問題の出題等）（注2）

（注2）出題問題の範囲の妥当性については、第3回（科目別検討事項）と合わせて議論することが適当と考えられるため、第3回で議論。

② 近年の保健医療分野の国際化の進展等を踏まえた難易度

- 他の保健医療関係職種の国家試験における出題状況（医師） （1 / 2）
- 医師国家試験では、平成19年の医師国家試験改善検討部会報告書において、国際性の重要性について明記（本報告書の内容は平成21年の医師国家試験から適用することが望ましいと記載）

医師国家試験改善検討部会報告書（平成19年3月16日）

1. 医師国家試験問題について

（1）出題内容について

（略）

なお、医師として必要な基礎的計算力、患者や他の医療関係者とのコミュニケーション能力、国際性等も重要な事項であり、医師国家試験として対応する必要性及び方策について、共用試験等の内容の充実も求めながら引き続き検討していくことが望ましい。

② 近年の保健医療分野の国際化の進展等を踏まえた難易度

- 他の保健医療関係職種の国家試験における出題状況（医師） （2 / 2）

第103回（平成21年）医師国家試験C問題

10 組合せで誤っているものはどれか。

- a 心房 — aorta
- b 動脈 — artery
- c 静脈 — vein
- d 神経 — nerve
- e 脊椎 — spine

正答： a

第113回（平成31年）医師国家試験E問題

8 聴診所見と呼吸器疾患の組合せで誤っているのはどれか。

- a stridor — 肺サルコイドーシス
- b wheezes — 喘息
- c friction rub — 結核性胸膜炎
- d fine crackles — 間質性肺炎
- e coarse crackles — 細菌性肺炎

正答： a

② 近年の保健医療分野の国際化の進展等を踏まえた難易度

- 他の保健医療関係職種の国家試験における出題状況（歯科医師）（1 / 2）
- 歯科医師国家試験では、平成19年の歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書において、今後検討すべき事項として、英語等の外国語によるコミュニケーション能力について明記（本報告書の内容は平成22年の歯科医師国家試験までの運用を目指す旨を記載）

歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書（平成19年12月26日）

III 今後検討すべき事項

（4）その他 （略）

近年、歯科保健・医療分野におけるグローバル化が求められている中で、少なくとも、歯科保健・医療分野で必要とされる英語等の外国語によるコミュニケーション能力を習得しておくことも必要であり、これを考慮した試験のあり方について中長期的に検討していくことが望ましい。

② 近年の保健医療分野の国際化の進展等を踏まえた難易度

- 他の保健医療関係職種の国家試験における出題状況（歯科医師）（2 / 2）

第103回（平成22年）歯科医師国家試験A問題

27 組合せで誤っているものはどれか。

- a 切歯 — incisor
- b 犬歯 — canine
- c 小白歯 — premolar
- d 智歯 — impacted tooth
- e 乳歯 — deciduous tooth

正答：d

第103回（平成22年）歯科医師国家試験C問題

29 身体の部位と主要常在細菌との組合せで正しいのはどれか。1つ選べ。

- a 膣 — Lactobacillus
- b 膀胱 — Bacteroides
- c 小腸 — Helicobacter
- d 鼻腔 — Enterococcus
- e 皮膚 — Bifidobacterium

正答：a

② 近年の保健医療分野の国際化の進展等を踏まえた難易度

- 他の保健医療関係職種の国家試験における出題状況（薬剤師）

第106回（令和3年）薬剤師国家試験必須問題

問69 図中のアに入る語句はどれか。1つ選べ。

- 1 COCHRANE LIBRARY
- 2 DRUG SAFETY UPDATE
- 3 INTERVIEW FORM
- 4 PHYSICIANS' DESK REFERENCE
- 5 RISK MANAGEMENT PLAN

正答：2

No. **000** 厚生労働省 医薬・生活衛生局 監修

ア

医薬品安全対策情報

—医療用医薬品使用上の注意改訂のご案内—

編集・発行 日本製薬団体連合会
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-7-2
FAX 03-6261-9455 E-mail dou@jpmaj.or.jp

No. 279 (2019.5)以降、下記医薬品の「使用上の注意」が改訂
されましたので、改訂内容及び参考文献等をお知らせします。
詳細についてのお問い合わせは当該企業にお願いいたします。

禁断 禁断 禁断

最重要

その他の腫瘍用薬 4 2 9
■ × × × ×

重要

血管収縮剤 2 1 6
■ △ △ △ △ ■ ▽ ▽ ▽ ▽
■ ○ ○ ○ ○ ■ □ □ □ □
■ × × △ △

その他の腫瘍用薬 4 2 9
■ △ △ ○ △ ■ ○ × ○ ×
■ × × ○ ×

抗ウイルス剤 6 2 5
■ △ ○ △ ○

その他

催眠鎮静剤、抗不安剤 1 1 2
■ △ □ × □ ■ △ △ □ □

解熱鎮痛消炎剤 1 1 4
■ × △ × △ ■ □ △ ○ △

抗パーキンソン剤 1 1 6
■ □ × □ ×

精神神経用剤 1 1 7
■ × □ × △

その他の中枢神経系用薬 1 1 9
■ ○ × △ □

② 近年の保健医療分野の国際化の進展等を踏まえた難易度

- 他の保健医療関係職種の国家試験においては、それぞれの専門領域や職務を踏まえた英語の問題が出題されている。



- こうした状況を踏まえ、管理栄養士国家試験においては、以下の対応としてはどうか。

多職種連携が一層進む中、

- 保健医療関係職種共通に広く用いられており、管理栄養士も知っておくべき英語用語
- 管理栄養士の専門領域に係るものとして知っておくべき英語用語

について、**その理解を確認するための問題を導入する。**

総論的検討事項について

- ① 保健医療分野共通の事項に関する他の保健医療関係職種（注1）の国家試験の出題状況を踏まえた難易度

（注1）本検討会においては、医師、歯科医師、薬剤師及び看護師を対象とした。

- ② 近年の保健医療分野の国際化の進展等を踏まえた難易度

- ③ 管理栄養士の活躍領域や業務内容を踏まえた出題採点方式（必修問題の出題等）（注2）

（注2）出題問題の範囲の妥当性については、第3回改定検討会の議事（科目別検討事項）と合わせて議論することが適当と考えられるため、第3回で議論。

③ 管理栄養士の活躍領域や業務内容を踏まえた出題採点方式 (必修問題等の出題)

- 他の保健医療関係職種の国家試験における必修問題等の出題状況

医師※1	「必修問題の合格基準は、絶対基準を用いて最低の合格レベルを80%とし、必修問題を除いた一般問題・臨床実地問題の合計得点の合格基準は平均点と標準偏差とを用いた相対基準を用いる。」
歯科医師※2	「必修問題は、歯科医師として必ず具有すべき基本的な最低限度の知識及び技能を有する者を識別する目的で出題されていることから、絶対基準を用いた合格基準を設定しており、一般問題と臨床実地問題は、合格率の乱高下を防ぎ、毎年、一定の知識・技能を持つ者を確保できるよう、相対基準を採用している。」
薬剤師※3, 4	「必須問題は、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的な資質を確認するものであることに鑑み、各科目における基礎的な内容を問うものとして出題している。」 - 必須問題の合格基準は、「全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の30%以上であること」としている。
看護師※5	「看護師国家試験における必修問題は、看護師にとって特に重要な基本的事項を問うものであることから、限られた範囲の中で問うことが妥当であると考えられる。」

※1 医道審議会医師分科会 医師国家試験改善検討部会報告書（令和2年11月）参考資料（https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000079679_00001.html, 2022年10月25日アクセス）

※2 医道審議会歯科医師分科会 歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書（令和3年3月3日）（https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000118156_00001.html, 2022年10月25日アクセス）

※3 薬剤師国家試験出題基準（平成28年11月22日）（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/yakuzaishi-kokkashiken/index.html, 2022年10月25日アクセス）

※4 薬剤師国家試験のあり方に関する基本方針（平成28年2月4日）（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/yakuzaishi-kokkashiken/index.html, 2022年10月25日アクセス）

※5 医道審議会保健師助産師看護師分科会 保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書（令和3年3月31日）（https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_17819.html, 2022年10月25日アクセス）

③ 管理栄養士の活躍領域や業務内容を踏まえた出題採点方式 (禁忌肢を含む問題の出題)

- 他の保健医療関係職種の国家試験における禁忌肢を含む問題の出題状況

医師※1, 2	「医師国家試験における禁忌肢は、平成9年の第91回の医師国家試験から導入され、『患者の死亡や不可逆的な臓器の機能廃絶に直結する事項』を新たに禁忌肢問題として出題することとされた。」 - 医師国家試験の合否の基本的な考え方は、「必修問題、必修問題を除いた一般問題・臨床実地問題の合計の得点と、禁忌肢の選択状況をもとに決定する。」
薬剤師※3, 4	「禁忌肢の導入にあたっては、公衆衛生に甚大な被害を及ぼすような内容、倫理的に誤った内容、患者に対して重大な障害を与える危険性のある内容、法律に抵触する内容等、誤った知識を持った受験者を識別するという観点から作問することとする。」 - 薬剤師国家試験の合格基準は、「禁忌肢の選択状況を加味する。」こととされている。

※1 医道審議会医師分科会 医師国家試験改善検討部会報告書（令和2年11月）（https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000079679_00001.html, 2022年10月25日アクセス）

※2 医道審議会医師分科会 医師国家試験改善検討部会報告書（令和2年11月）参考資料（https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000079679_00001.html, 2022年10月25日アクセス）

※3 薬剤師国家試験のあり方に関する基本方針（平成28年2月4日）（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/yakuzaishi-kokkashiken/index.html, 2022年10月25日アクセス）

※4 「新薬剤師国家試験について」の一部改正について（平成30年8月31日付け薬生発0831第2号厚生労働省医薬・生活衛生局長通知）（https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11120000-iyakushokuhinkyoku/2_2.pdf, 2022年10月25日アクセス）

（資料）厚生労働省健康局健康課において作成

③ 管理栄養士の活躍領域や業務内容を踏まえた出題採点方式 (必修問題の出題等)

- 必修問題・必須問題は、医師、歯科医師、薬剤師及び看護師の国家試験において出題されている。
- 禁忌肢を含む問題は、医師及び薬剤師の国家試験において出題されている。



- 他の保健医療関係職種の国家試験は上記の状況である中、管理栄養士国家試験においては、以下のとおりとはどうか。

管理栄養士の活動領域や業務内容は、他の保健医療関係職種の活躍領域に比べて多領域に及んでおり、専門職として持つべき知識等について、必修、必須、禁忌肢等と一律に分類することが困難である。また、仮にこうした出題採点方式を採用した場合、活躍領域間で差が生じない公平・公正な出題とすることが困難となる。このため、**必修問題・必須問題及び禁忌肢を含む問題は出題しない。**